

山陽小野田市健康づくり推進協議会議事録

会議の種類	令和2年度第2回山陽小野田市健康づくり推進協議会		
日時	令和2年10月1日(木) 18:00~19:30		
場所	高千帆福祉会館2階会議室		
出席者 (16人)	山陽小野田市連合女性会	井上幸子	(委員)
	山口県看護協会小野田支部	小林由加理	(委員)
	山陽小野田市健康増進計画推進委員会	小柳朋治	(委員)
	市民代表	塩田賢二	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高木理代	(委員)
	山陽小野田市立山口東京理科大学	武田健	(委員)
	山口県農業協同組合	民繁詠児	(委員)
	山陽小野田市自治会連合会	千々松正俊	(委員)
	市民代表	中川寿恵子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢幸子	(副会長)
	山陽小野田医師会	廣田勝弘	(会長)
	山陽小野田市社会福祉協議会	藤田寿規	(委員)
	山口県歯科衛生士会山陽小野田支部	藤本文子	(委員)
	山陽小野田薬剤師会	松澤進	(委員)
	山口県栄養士会	三井洋子	(委員)
	山陽小野田市ふるさとづくり協議会	山田義隆	(委員)
欠席者 (3人)	山陽小野田市老人クラブ連合会	石原克宏	(委員)
	山陽小野田市小・中学校PTA連合会	滝将彦	(委員)
	山陽小野田歯科医師会	平木雄三郎	(委員)
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	佐野佐恵美	
事務局	福祉部長 兼本裕子	福祉部次長	岩佐清彦
	健康増進課長 尾山貴子	補佐兼健康増進係長	大海弘美
	主査兼健康管理係長 林善行	健康増進係長(母子)	古谷直美
	健康増進係長(食育) 加藤諭香江	健康増進係長(成人)	山本真由実

事 務 局	<p>1 福祉部長あいさつ</p> <p>2 会長選出</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 令和元年度保健事業実績報告について (事務局から説明) (事前に質問のあった事項について事務局より説明)</p> <p>○『マタニティスクールは父親の育児参加はいかがか?』という質問について ⇒令和元年度のマタニティスクールの対象者は 129 名、参加妊婦は 47 名、夫の参加は 41 人で、87.2%の参加であった。</p> <p>○『幼児食にむけてのステップアップ教室の受講者数は減少していると感じてよいか』という質問について ⇒令和元年度は 4 回、開催し、参加は 39 組で、対象は 156 名のため、参加率は 25%だった。平成 30 年度の参加率は 23.8%のため、ほぼ横ばいと見ており、対象者数が減少しているため受講者数が減少していると考えている。</p> <p>○『27 ページ母子健康手帳交付の令和元年度妊娠届け出時妊婦の年齢別妊娠週数別内訳とあり、右側に(再掲)出生後とあるが、これは何か。また、この表はどのように活用するのか』という質問について ⇒28 週以降に妊娠届を出した方の内、出生後に届け出た方を再掲として掲載している。本来、妊娠がわかった時点で早めに届け出をすることで安全に妊娠・出産が行われるようにということを目的として実施している。遅くなればなるほど、妊娠・出産のリスクが高くなり、中には妊婦健診を一切受けずに飛び込みで出産する方もおられ、これは産婦にも赤ちゃんにも非常に危険な状態である。また、虐待や望まない妊娠の可能性も大いにあり、そのような妊婦がいるかどうかを明確にするために非常に重要な指標とみている。</p> <p>○『28 ページ健康相談の②就学時健康診査時の健康相談についての目的の一つは「健康全般に対する保護者等の不安解消を図る」とあるが、不安は解消されたのか。』という質問について ⇒相談を実施することで、保護者の不安解消になっていると考えている。しかし、御指摘のあったように事業計画の目的に対する評価とはなっていないため、評価方法を見直す必要があると考えている。</p> <p>○『28 ページ③年中児発達相談会について、育児不安は解消されたのか』という御質問について ⇒参加された保護者にはアンケートを実施しており、その内容からは不安解消になっていると考えている。しかし、事業計画の目的に対する評価とはなっていないため、評価方法を見直す必要があると考えている。</p> <p>○『29 ページ⑤随時健康相談の相談件数が増加しているが、その要因はどのように考えているか』という御質問について</p>
-------	--

	<p>⇒平成 30 年度に子育て包括支援センターココシエがスマイルキッズ内に移転したことに伴い、来館時に気軽に随時での育児相談や計測ができるようになったことが増加の要因と分析している。その分、定例のすくすく相談の実績は減少している。市民が相談したいと思ったタイミングで相談できることで、子育て世代の方に寄り添った市民サービスであると評価している。</p> <p>○『53 ページの予防接種実施状況の推移の中で、日本脳炎の接種率が 100%を超えているが、これはどのように解釈すればよいか』という御質問について</p> <p>⇒予防接種は法律に基づき、対象年齢と標準的な接種期間が定められている。日本脳炎は、過去にワクチンの副作用により、接種が差し控えられていた期間があり、現在、経過措置が設けられており、対象年齢以外の方でも接種が可能となっている。そのため接種率が 100%を超える状況となっている。</p>
<p>委 員</p>	<p>では、日本脳炎のこの接種率はどのように解釈すればいいのか。政策にどのようにいかすべきなのか。何を示しているのか。よくわからない。また、今回は令和元年度の実績報告のため、令和元年 7 月に委員に提示した計画を参照することになるはずだが、ページが合っていない。もう一つは、計画にはない事業実績が掲載してあり、これをどのように解釈するのか、説明してほしい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>再掲のページの考え方は、28 ページを開いてほしい。例えばすくすく相談と標記があっても、どのような事業かの説明がないため、事業の概要を説明するために、参照ページ数を掲載している。ただ、説明足らずではあると感じているので、今後見直しをしていきたいと思う。実績については、計画になかったことや変更したことを掲載してしまい、返ってわかりづらい表記になってしまったため、今後、工夫をしたいと考えている。</p>
<p>委 員</p>	<p>では、日本脳炎の接種率は、どのように解釈すべきなのか。この数値を出した意味、解釈するところをおしえてほしい。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>県等に報告する実績をそのまま掲載しているため、このような数値となっている。この数値をどのように解釈するのかは、100%を超える接種率のところは、あまり問題視しておらず、接種率が低いところを、周知が足りないのではないかとということを含め、より 100%に近づけるよう次にいかしていきたいと考えている。</p>
<p>会 長 事 務 局</p>	<p>まだ、次の回答があるようですので、次に進んでいきたいと思います。事前にいただいた質問のうち、成人保健分の回答をする。</p> <p>○『40 ページの健康診査と 43 ページの女性の健康診査で、受診率が 1%前後となっているが、これをどのように解釈しているのか』との御質問について</p> <p>⇒いずれも市の健診は対象者から治療中及び経過観察中の方は除くとしており、正確な対象者の把握は困難な状況である。がん検診の受診率は対象人口が母数となるため、それに合わせた受診率の算出</p>

	<p>をしている。現在、受診率の目標はたてていないが、しっかりと周知を行い受診者数の増加に努めていきたいと考えている。</p> <p>○『42 ページの要精密検査受診率は他の地域と比較してどうなのか』という御質問について</p> <p>⇒一つ一つの他市との比較はできていないが、山口県平均と比較すると、本市の精密検査受診率は、肺がん以外のがん検診で上回っている。要精密検査受診率は、国ががん検診の精度管理の一つの指標としており、許容値といって、国が最低限この数値は上回ってほしいと示している値があるが、本市は肺がん検診を含め上回っている状況。</p> <p>○『15 ページの計画では、⑥協会けんぽとの取組が掲載しているが、実績が掲載されていないが実施していないのか』という御質問について</p> <p>⇒連携の協定は一昨年度の3月に締結し、昨年度は協会けんぽの特定健診受診券発送時に本市のがん検診情報を掲載したチラシを同封したり、本市の総合健診時に協会けんぽの方が特定健診を受診できる機会を2日設け、御案内は協会けんぽから送付してもらった。この2日間で協会けんぽの方が実数で80名、受診された。</p> <p>○『第2次健康増進計画の基本目標の評価指標に健康寿命の延伸とあるが、現在の状況はどのようになっているのか』という御質問について</p> <p>⇒平成30年度で男性は80.76、女性は84.34歳。男性は1.47歳伸長、女性は0.89歳短縮している現状。県内の順位では男性は3年連続1位、女性は13位から8位、5位と、少しずつ改善していると評価している。算出する方法は様々あるが、市独自の健康寿命の算出については、現在検討中。</p>
<p>会 委 員</p>	<p>事務局からの説明について、何か質問がある方はいるか。</p> <p>要精密検査率は、他市と比べてどうなのか。本市は他市に比べて不健康な人が多いのか。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>県平均と比べて本市が高いのは、胃がん・肺がん・子宮がん検診。ただ、これについては、低いからいいということではないと考えている。また、許容値を満たしていないのは、大腸がんと子宮がんだが、県の協議会ではこれ以上、下げると見逃してしまう人が増えるためこのままでいいという見解もある。</p>
<p>会 長</p>	<p>医師としての見解だが、胃がん検診については本市では内視鏡での検診が可能となっている。胃がん検診は実施可能な機関が限られていたり、本市は内視鏡が多いので、異常の指摘がしやすい、国全体では要精密検査率は1%少々となっているため、検査方法の問題もあるのではないかと考えている。</p>
<p>委 員 事 務 局</p>	<p>まとめ方として、委員が検討できるような資料としてもらいたい。健康寿命を平均寿命と比較した場合はどうか。</p> <p>平均寿命は国が5年に1回、発表するものとなっているため、次は今年になるため、もうしばらくすれば評価できると考えている。</p>

会 長	資料は見やすい形で再度、検討してほしい。 (2) コロナと向き合う健康づくりについて (事務局から説明)
会 長	事務局からの説明について、何か質問がある方はいるか。 (委員からの質問等はなし)
会 長	では、コロナ禍の中での情報の周知について、何かいいアイデア等があれば、御意見をお願いしたい。
委 員	アイデアはないが、これらの変更等については、令和2年度の事業計画を変更し、ホームページにアップしていくことが大事と思うがいかがか。
事 務 局	委員の御意見は最もだが、毎月、変更等がある中、また、今後のコロナの拡大状況で日々変化していく中で、どの時点で改訂版を出すのがいいのかは内部で議論をした上で、対応していきたい。ただし、各事業の中止・変更等につきましては、随時、ホームページ等ではタイムリーに情報提供しておりますので、御確認いただきたい。 (3) その他 (スマイルエイジング パンフレットについて事務局より説明)
会 長	事務局からの説明について、何か質問がある方はいるか。 (委員からの質問等はなし)
会 長	最後に本日、オブザーバーで出席の宇部健康福祉センター佐野様から御助言をいただきたい。
オブザーバー	コロナ禍のこの時期だからこそ、今何が必要なのか、市民の皆様にも考えていただき、お知恵をいただくと健康福祉センターとしてもありがたい。今回は活発な議論とまでにはならなかったが、ぜひ、また所属に返られても、いいお知恵が浮かばれたら、御意見いただくとありがたい。コロナの影響は今後も少し長く続いていきそうであるため、情報がなかなか行き届かないといった話もあったが、身近な人からお声かけをしていただき、御家庭、職場、所属団体といったところへ広げて情報共有していただくということが大切なのではないかと思う。また、出前講座等もあるようなので、そういう機会を利用し、コロナが蔓延していかないようにしていくこと、また感染症とうまくつきあいながら、皆様方の健康の維持・増進をぜひ、考えていただきたい。
委 員	4 その他 SOS健康フェスタについて、少し説明したい。 今回のコロナ禍で、市の主催行事が中止になっていく中で、なんとかして開催できないかと考え、オンラインでの開催をすることにした。現在、参加者についても募集しており、10チャンネルぐらいはできそうであ

司 会 健康増進課長	<p>ること、医師会講演会も動画で見られるよう準備をしている。今回のフェスタは、多くの方が見るということではなく、オンラインという形でフェスタを開催するということを目指してやっている。動画は 11 月 15 日から 30 日までみることができるので、ぜひ、見ていただきたい。今後、年配者に向けての QR コードの見方などについても、事前にお知らせできるようなことも考えているので、ぜひ、応援していただければと思う。</p> <p>本日、令和 2 年度第 1 回山陽小野田市健康づくり推進協議会の書面による開催に伴う委員の方からの御意見等と市の考え方または対応等を机上に置いている。こちらについては、お持ち帰りいただき、目を通していただきたい。</p> <p>健康増進課長あいさつの後、閉会した。</p>
-------------------	---